

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

希望のブーメラン

（原文は英語）

マルタ・アンドウリイブナ・チェルニチュカ（18 歳）

ウクライナ・キエフ市

キエフ国立大学タラス・シェフチェンコ国際関係研究所

薄暗い部屋に一人で座っていると、自分の言葉を静寂に投げかけているように感じる。私は心に悲しみを抱えてこの文章を書きながら、あなたにとってこれを読むことはとてもつらいことだろうと想像している。きっと、この手紙は、毎朝鏡の中で出会う人とは似てもつかない、知らない人が書いたものだと、自分に一生懸命言い聞かせているに違いない。



私には分かる。何が起ころうとも、私たちって、ささいな問題をいつも大きなトラブルに変えてしまうタイプの人間。現実のごくごく一部をフィクションと組み合わせて、それを膨らませて作った巨大なシャボン玉の中に入り、日常のあれこれから隠れてしまう。

運命は皮肉と無縁ではない。あなたは私を意識しないだろうが、私たちは毎日すれ違っている。あなたのいろいろな夢や思いの中で。もっとも、あなたが私から目をそらし、この事実を正面から見ないようにする瞬間があるけれど。

秘密を明かしてもいいかしら。幻滅することもあなたのためになると思う。私（将来のあなた）があなたの希望どおりになっているなんてありえないのだから。ごめんなさい、あなたにとっての一番低いハードルでさえ、私が飛ぶには高すぎるみたい。私は「1 位」を目指して表彰台の高い位置へとどんどん登っていきけるほど強くない。そう、私が言うのだから間違いない。レースで一番になることがそれほど重要でないと気づく瞬間を、あなたは忘れないだろう。

この手紙を読んで、疑問だらけになっていると思う。たくさんの疑問が浮かんで、もつれ合って、糸玉になる。そして私の話の中の欠落部を見つけようとするだろう。そうすれば、私の話を「信じられない」と片付けることは簡単だから。

とにかく、もしも私の言うことが、まだただの作り話に思えるなら、どうかその作り話に耳を傾けてほしい。

2030 年の世界を想像するには、自分にこう問いかければいだけ。「あなたの目にはどう見えるの？」
今この瞬間、あなたは頭の中で私にとっての現実を生み出している。あなたの世界の人々は毎日、

10年先に向かってブーメランを投げている。このブーメランは、たどるべき道筋を2030年の私たちに示し、2020年の人々が描いた将来の展望を示している。

そんなブーメラン、つまりメッセージが、私たち一人ひとりに毎分どれだけ投げかけられているか、数えきれない。いつも不確実な賭けになってしまう。私の友達は昨日、自分が過去に慈善活動をしよと決めたことに気づいた。慈善基金の主催者になりたいという希望を、すでに未来に送っていたことになる。

ここであなたは、それはちょっと安易すぎやしないかと疑いを持つだろうね。あなたの希望を未来に送るだけで、それが実現するなんて。

正直に言うと、私はまだ自分のブーメランを待っている。時の砂の中でどこかへ行ってしまったのではないかと、行き止まりに突き当たったように感じる。あなたの願望は信じる力が弱かったから、私のブーメランはここまで飛んでくることができなかった。

私は毎日、他の誰かのルールに従って暮らしている。だから私も同僚も、嫌な仕事を耐え忍んでいる。過去の自分がそんな生活に慣れるよう命じているのだから！ 私たちはただ、過去の何かが間違っていたのだと後悔するしかない。道をはばむすべての山を動かし、自分をありのままに受け入れるよう、自分に言い聞かせるべきだったのに。

自分を信じて！

父さんの言葉を思い出して。「ルールに従うことより、車にひかれないようにすることの方が大切だよ」。一番大切な目標は、完璧なバージョンのあなた自身になることではなく、幸せな人間になること。そして、それは何も無い所から進む道を切り拓くこと。

私のために新しい人生を創り出して！

私たちはまったく違うけれど、見えないリンクで強く結びついている。それを通じてあなたの思いが私に送られてきて、ここで現実になる。

周りを見渡してみても。あなたの人生は、一人の小さなプリンセスが夢のレンガで建てたお城のようなもの。それは、善き魔女になって素敵な世界を作ろうと強く思っていたあなた。だからどうか、信じる心をもってブーメランを投げて、私を取り巻くこの空白を埋めて。